

社会に繋がる

SOCIETY

世界の国々や地域の人々に 心と力を合わせて

社会貢献とコミュニケーション

出張授業

中部地方整備局発注の狩野川江川堤防耐震対策工事は、堤防下地盤の液状化対策を行うもので、対策工法には当社のバルーングラウト工法が採用されています。

この現場では、周辺の小学生を対象に出張授業を行っています。参加した小学生は、静岡県沼津市立千本小学校の4年生～6年生と沼津市立金岡小学校6年生で、7クラス127名でした。



液状化の模型実験風景



薬液の反応実験風景

出張授業は、液状化対策の重要性や防災意識の高揚を目的として行いました。最初に東日本大震災の液状化現象の映像を用いて液状化の仕組みの説明をした上で、工事場所から採取した砂を用いて水槽の中で人工的に液状化を起こし、実際に砂から水が噴出する様子を生徒の目の前で実演しました。そのあとに、実際に工事で使用する2種類の薬液

が化学反応により固まる様子を見てもらったり、砂を薬液で固める実験を生徒自身に体験してもらいました。

小学6年生は、理科の授業で地震の起こる仕組みや地震によって大地に起きる変化を勉強していたので、大変多くの質問があり担当の職員を驚かせました。授業のあとには、「液状化やその対策について分かりやすく学ぶことができた」と笑顔で話をしてくれました。

本活動では、参加した2校から感謝状をいただくとともに、新聞にも掲載され、現場の取り組みを広く知ってもらうことができました。



横浜支店「象の鼻地区清掃活動」

2009年10月9日、前日に日本列島を縦断した台風18号が横浜港象の鼻地区(赤レンガ倉庫と山下公園の中間にある地区)にもたらしたゴミ等漂流物をボランティアとして

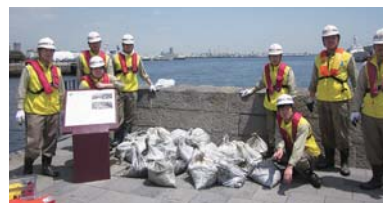


カキ殻落とし作業状況

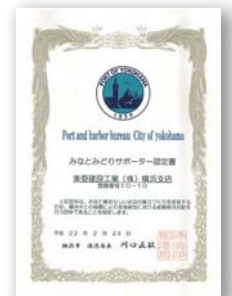
清掃したことを契機に、横浜支店では定期的に同地区清掃活動を続けています。2010年2月には横浜市港湾局より「みなとみどりサポーター」団体に認定されました。

現在の活動は、月1回の同地区公園清掃、年1回のカキ殻落とし・花苗植付・除草です。清掃活動は毎回約10名の社員が参加し、夏は炎天下、冬は寒風の中、象の鼻公園内を約1時間のゴミ拾い、カキ殻落としは地区の名前の由来にもなった『象の鼻』にそっくりな形をした防波堤の石積み箇所に付着したカキ殻を回収します。

ドラマ撮影が頻繁に行われるほどお洒落でキレイな所ですが、その一方では150年を超える歴史のある横浜港。私達は「みなとみどりサポーター」の一員として、いつまでも魅力溢れる横浜港であり続けるための支援を行います。



清掃活動集合写真



港内での流出油回収で表彰

2012年11月2日6時15分頃、鹿児島港新港内において、原因不明の油の流出を当社職員が発見しました。発見当初は異臭を放つ油が新港区内南側岸壁約500mにわたり浮遊している状態で、風向きの影響もあり港外まで拡散し流出する可能性がありました。

当日はグラブ床掘作業を予定していましたが、直ちに作業を中止し、職員及び作業員総勢37名、吸着マット約1500枚、作業船2隻を使用して油回収作業を行いました。また、油流出の発見から回収作業まで、鹿児島海上保安部並びに港湾管理者である鹿児島地域振興局と連携を取り、現場で当社が主導となり油回収作業を終日行いました。その活動により、油拡散の被害を最小限に抑えることができました。

これらの適切な処置活動が認められ、港湾管理者(鹿児島振興局)より感謝状をいただきました。



吸着マットによる流出油の回収

タラカン作業所 社会体験学習

インドネシア共和国のタラカン島ではシップヤード建設工事を行っています。実習生(Cad Operator)として3名の高校生を3ヶ月間、タラカン島内にある高校から現場事務所に受け入れて、実務を通じた社会体験を行ってもらいました。

◆現場からの一言

現場事務所では主に施工図の修正作業やその他の雑務等を行ってもらい、上司(教育担当者)との関わり方や日常の業務・現場規律(毎朝の朝礼等)を通じ仕事をするという意味を学びとってもらえたかと思います。また、実習中に行った現場見学において、土木構造物の建設がどのように行われているかを現場担当者に質問していた時の目の輝きが印象に残っています。公共益に資する機会ができたことに感謝するとともに、この社会体験が彼女達の将来を決定する時の一助になることを心より希望しております。

に、この社会体験が彼女達の将来を決定する時の一助になることを心より希望しております。



クタビーチ清掃活動

当社は、インドネシア共和国バリ島クタ地区において、水質・海洋汚染の拡大を抑制するための下水道整備事業として、下水道管渠敷設工事を行っています。施工エリア内には、バリ島内でも特に有名な観光スポットとしてクタビーチがあります。この重要な観光資源をこれからも守っていくため、クタビーチクリーンナップ活動に参加しました。



漂流木の積み込み作業

一人ひとりができることから始める

エコキャップ活動の推進

当社は、NPO法人エコキャップ推進協会が推進するエコキャップ活動に参加しています。この活動は、ペットボトルのキャップを再資源化してCO₂の削減を図るとともに、キャップの再資源化で得た売却益で世界の子供たちにワクチンを届けることを目的としたものです。

本社・支店のオフィスから現場まで全社で取り組み、2012年度は35万4,021個を回収しました。これにより423人の子供の命を救い、2,668kgのCO₂を削減することができます。なお全社累計で、134万4千個余りのキャップを回収しています。



タイ・ラオスに「救援衣類を送る運動」「書き損じハガキ回収運動」

アジア連帯委員会(CSA)では1980年以来、難民キャンプやタイ・ラオスの方々に「救援衣類を送る運動」を行っています。当社労働組合はこの運動の趣旨に賛同し、組合員に協力を呼びかけています。2012年はダンボール箱52個分の衣類を送ることができました。

また、特定非営利活動法人ハンガーフリーワールドが世界の飢餓・貧困撲滅を目的に行っている「書き損じハガキ回収運動」にも参加し、2012年度は書き損じハガキ502枚、未使用テレホンカード3枚、未使用切手860円分の提供を行いました。

